

在宅療養「在宅コーナー」

大津市北部地域における在宅医療について

大津市医師会在宅療養推進部
和邇エリア・ブロックリーダー

上 川 龍 彦（1組、小松診療所）

現在、大津市北部地域を中心として当院を含め5医療機関が連携し在宅医療を行っています。

以前より個々に在宅療養支援診療所として在宅医療に取り組んでいた小泉医院、青木医院、ふくた診療所、小松診療所の4診療所が平成24年4月より連携を始め、平成25年10月より大津赤十字志賀病院が加わり連携しています。

当地域では大津市中心部に比べ医療機関が少ないこともあり、堅田地域にある一つの医療機関と旧志賀町域の各小学校区にある医療機関一つづつが広域にわたり連携することとなり、地域的にバランスのよい配置になったと思います。その結果、当院だけの考えかもしれませんが、各診療所の診療圏もほぼ重ならず、連携医療機関同士で余計な気を遣わない連携になっていると思います。さらに、診療所間の連携だけでなく大津赤十字志賀病院が参加されたことで、以前にも増して診療所と病院間の意思疎通がスムーズにできるようになり、入院が必要となった在宅患者をより安心して紹介したり、逆に退院患者を受け入れることができるようになりました。このことは医療機関だけでなく患者にとっても大きな利点とされます。

毎月1回、在宅カンファレンスを開催し、重症患者の情報などを共有、意思疎通を図り、隔月には「大津北の方のミーティング」、略して「OKミーティング」としてカンファレンスを開き、連携医師のみならず、連携外医師、歯科医師、訪問看護師、ケアマネージャー、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、理学療法士、地域包括支援センター職員等、多職種が集まり、顔の見える関係を築き在宅医療に関する勉強会を行っています。

このように他の大津の地域に比べ在宅医療の連携は進んでいると思いますが、各連携医療機関の在宅医療に対する考え方はそれぞれで、また各連携医療機関の在宅患者数も1名から数十名と規模も異なっていることなどから、独自性を保ちつつ連携しています。つまり、各連携医療機関は、常時協力してお互いの在宅患者を診療しているのではなく、基本的には各連携医療機関それぞれが24時間365日、自院の在宅患者に対してのみ責任を負い、一時的に旅行などで診療できない場合などに急変時の対応を他院に依頼している状況です。ある意味緩い連携かもしれませんが、各医院の特徴を生かした連携とも言えます。

医師ひとりの医療機関が単独で24時間365日、在宅患者に対応する体制を維持することは困難と思われませんが、このような形で連携をとることにより、医療機関が疲弊しない環境が実現できていると思います。

今後の課題として、大津市域外を含め、さらなる多職種との連携やあさがおのネットの活用などICTの利用を考えていきたいと思っています。

